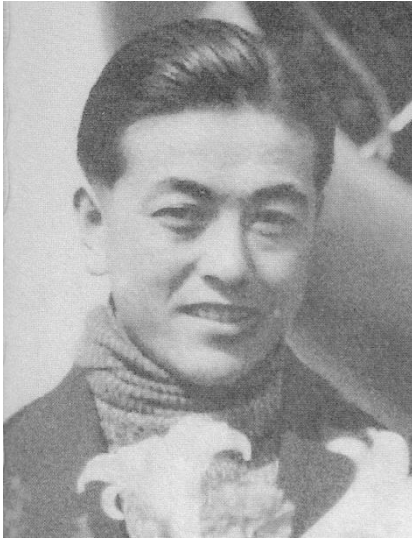


## 戦前日本航空界の英雄 飯沼正明

平成 29 年 7 月 27 日(木)



飯沼正明(1912~1941)



絵葉書に描かれた国産飛行機「神風号」

### 1. 幼少期から朝日新聞社入社までの飯沼正明と時代背景

(1)飯沼正明の幼少期 明治 45 年(1912)が大正元年と改元された 7 月 30 日からほどない 8 月 1 日の生まれ。改元にちなむ。生家は庄屋を務めたこともある南穂高村細萱の豪農。父飯沼文五郎の五男。母よし江は飯沼が 3 歳の時に死去。以後祖母きくに育てられた。飯沼は自分の幼少期を振り返り自著『航空随想』で「私の生まれた南穂高村は文字通りの寒村である。周囲を山に囲まれ、僅か犀川の流域に拓けた平地を松本平と呼び、村の人々は農作物と養蚕とで生計を樹てて居る。/ 私の家も昔は大分養蚕をやったらしく夏など家中の畳をあげ、戸を外す様に出来て居るので、家の中に壁とか押入が一つもない。」と振り返る。

**飯沼正明誕生の年明治 45 年(大正元年)の世相** (引用参考:『明治・大正家庭史年表』<河出書房新社>)

- 4 月 14 日にイギリスの豪華客船タイタニック号が北大西洋で氷山に衝突し沈没、1,513 人死亡。
- 6 月 1 日アメリカ人飛行家アットウォーターが水上機で東京―横浜間を飛行、日本初の飛行郵便。
- 7 月 3 日大阪市天王寺にエッフェル塔を模した通天閣が完成し、新世界ルナパークが開園。
- 7 月 30 日明治天皇崩御、61 歳。崩御で更なる不景気に陥る(「諒間不景気」)。「大正」と改元。
- 8 月～10 月、上海で発生したコレラが長崎に侵入、中国・近畿を經由し東京までコレラが流行。
- 9 月 13 日乃木希典大将と夫人、明治天皇に殉死。これに影響され大正 3 年夏目漱石「こころ」執筆。
- この年、稲の作付面積が初めて 300 万町歩を超える。/ 「茶摘み」「汽車」「村祭り」「春の小川」(唱歌)、「都ぞ弥生」(北大予科寮歌)流行する。/ このころカボチャが一般的な野菜として普及する。

(2)飯沼少年に影響を与えた長谷川清登飛行士による「サルムソン 2A」の飛行

①大正 13 年に郷土訪問飛行のため松本に向かうべく各務原飛行場を発った民間飛行士長谷川清登(豊科町上鳥羽出身。旧姓:中野。大正 10 年日本で初の一等飛行士。大正 13 年、松本市の支援により郊外笹部に個人飛行場「長谷川飛行場」をもつ。飛行機の平和利用の普及に努める)は教員を務めたことがある南穂高村を經由。尋常高等小学校の教室からサ

ルムソン機が南穂高村に旋回飛行を見せてくれたことが航空界をめざすきっかけとなったという。飯沼はいう、「飛行機は小学校の時から好きでどうしても乗りたかった」(『航空随想』)(サルムソン機のプロペラは現在、豊科郷土博物館に収蔵されている) なお長谷川飛行場は昭和9年(1934)の室戸台風により格納庫と飛行機を失う。

**長谷川飛行士訪問飛行の年大正13年の世相** (引用参考:『明治・大正家庭史年表』〈河出書房新社〉)

- 1月大阪毎日新聞、大阪朝日新聞100万部突破。/26日皇太子裕仁(昭和天皇)、久邇宮良子と結婚。
- 4月6日伊でファシスタが絶対多数を獲得 /14日長谷川清登が日本アルプス越え冒険飛行に成功。
- 6月9日パリ-東京間初飛行の飛行機が所沢に到着。/13日小山内薫、土方与志ら新劇の築地小劇場開く。
- 7月9日相模湾で日本初の空爆実験/22日大阪毎日新聞が日本一周飛行実施。4,395km、33時間48分。
- 9月28日アメリカ陸軍航空隊ダグラス機が世界一周飛行に成功。175日間、実飛行時間300時間。
- 12月宮沢賢治『注文の多い料理店』自費出版 / 内務省、6大都市に煤煙(大気汚染)問題取締を通達

(3)家は本来豪農であったのになぜ旧制松本中学からの進学先を旧制高校としなかったか

①飯沼家の経済が傾いた要因

父文五郎は南穂高村の収入役を12年務めたが、世界的な不況によりかつて養蚕業や蚕種業が盛んだった村の税収は減ったので、不足を飯沼家の財産の一部で補わなければならなかった。その父も松本中学5年の時に死去。以後、長兄友員(銀行員)が親代わり。

②旧制高校に行っていればどうなるか→旧帝大で飛行機開発研究の可能性

飛行機の夢を抱き続けているとすれば、東京帝国大学の工学部さらには航空研究所で航空工学を学び、飛行機を開発する方の道も考えられた。だが飯沼は試験が嫌いといっている。家産の厳しい状況や長兄にこれ以上面倒をかけられないと、早く独り立ちしたかったのではなかろうか。「飛行機研究」より「飛行機乗り」が飯沼には強い希望だったのである。

(4)逓信省委託操縦生として陸軍所沢飛行学校に入学、一等飛行士となり就職

①長谷川清登が2年間教官を務めたことがある所沢陸軍飛行学校で8ヶ月学び、優れた飛行技術をもつ主任教官藤田雄蔵大尉の指導を受ける。二等飛行士となる。(昭和6年)

②最優秀の成績で卒業した飯沼正明は卒後1年間、藤田大尉の助手として働きながら勉強を重ね、昭和7年(1932)9月に一等飛行士の資格試験に合格。10月朝日新聞社航空部に就職。当時同社航空部では所沢陸軍飛行学校のトップを採用することを不文律としていた。

**飯沼正明が就職した年昭和7年の世相** (引用参考:『昭和・平成家庭史年表』〈河出書房新社〉ほか)

- 1月満州事変の戦線が上海にまで拡大し28日上海事変勃発 ○2月22日上海戦線で肉弾三勇士戦死(のち捏造の美談と判明)
- 3月傀儡国家満州国建国宣言。 ○4月花王石鹼が「花王シャンプー」発売、シャンプーの語を初めて使用
- 5月9日神奈川県大磯町で慶大生が恋人と心中、「天国に結ぶ恋」。同日 拓務省、満州移民計画発表。 ○5月15日海軍青年将校と陸軍士官候補生9人が首相官邸で犬養首相を射殺(5・15事件)、政党政治終焉
- 7月30日オリンピック・ロサンゼルス大会で南部忠平・西竹一・西田修平らが金メダルを7個獲得。 ○10月1日東京市が5郡82ヶ町村を合併し人口497万人(35区)となり、ニューヨークに次ぐ世界第2の大都市に /2日外務省「リットン報告書」を公表。同報告書は満州事変を日本の自衛行為と認めず
- 12月16日東京日本橋の白木屋(のち東急デパート)で火災、女性店員14人が死亡。洋装下着の普及へ

飯沼正明はその期待を裏切らなかった。航空部長河内一彦とはよく議論し信頼篤かった。

③朝日新聞社就職後の目覚ましい活躍

- 昭和9年(1934)9月に大阪・北平(今の北京)2,200kmを京城(現ソウル)経由で8時間24分かけ北平の南苑飛行場に到着、日中処女航空路を開発。この飛行では川崎式複葉通信機を用い、日本から北平の居留民へ郵便物、土産物等を届け、親善訪問飛行を果たす。「ユンカーの大型機が盛んに美しい古都の秋空に爆音をばらまいて居る」(『航空随想』)。
- 昭和10年(1935)4月、のち神風号でコンビを組み、大の親友となる塚越賢爾機関士とともに台北大震災の原稿・写真フィルムを空輸し、台北・東京間2,500kmを10時間31分(平均240km/h)で飛行、話題となる。「後方には老練な塚越機関士が控えて居てくれ」(同)
- 昭和11年、ベルリンオリンピックの記事原稿・写真フィルム空輸においてハルピン・大阪間2,130kmを7時間28分(平均時速285km)で飛び単座機による飛行記録をつくる。

## 2. 飯沼正明が入社した朝日新聞社の状況

### (1) 毎日新聞との熾烈な販売競争

- ①大正13年(1924)1月、大阪毎日新聞が発行部数100万部突破を公表、大阪朝日新聞も同様の発表をする。

### (2) 販売戦略としての文化活動展開

- ①もともと明治、大正から文化活動を展開したという素地

- 陸軍中佐福島安正「欧亜単騎遠征」(明治25年2月11日ベルリン出発、ワルシャワ、ペテルブルク、モスクワを経てウラル山脈越え。シベリアを横断シイルクーツク、満州を経て明治26年6月12日ウラジオストックに到達。490日かけ単独遠征)の独占報道。
- 陸軍大尉郡司成忠「千島探検」(明治26年3月20日千島最北の占守島への移住を企て同士62人と5隻のボートで向かう。青森沖で暴風雨のため18人を失い途中から軍艦磐城に乗り165日に到達。越冬中10人死亡、生存者は翌年6月磐城により帰還)の独占報道。
- 大正4年(1915)、大阪朝日新聞社主催で豊中グラウンドにて第1回全国中等学校優勝野球大会開始(第10回から甲子園球場)。出場校は早稲田実業、神戸二中、広島中等10校。

### ② 親善訪問飛行の伝統

#### 写真省略

【史料】 『大阪朝日新聞 二万号記念帳』(昭和12年6月27日刊行)に見る

「亜欧連絡記録大飛行」までの朝日新聞社航空前史「世界記録を作るまで」

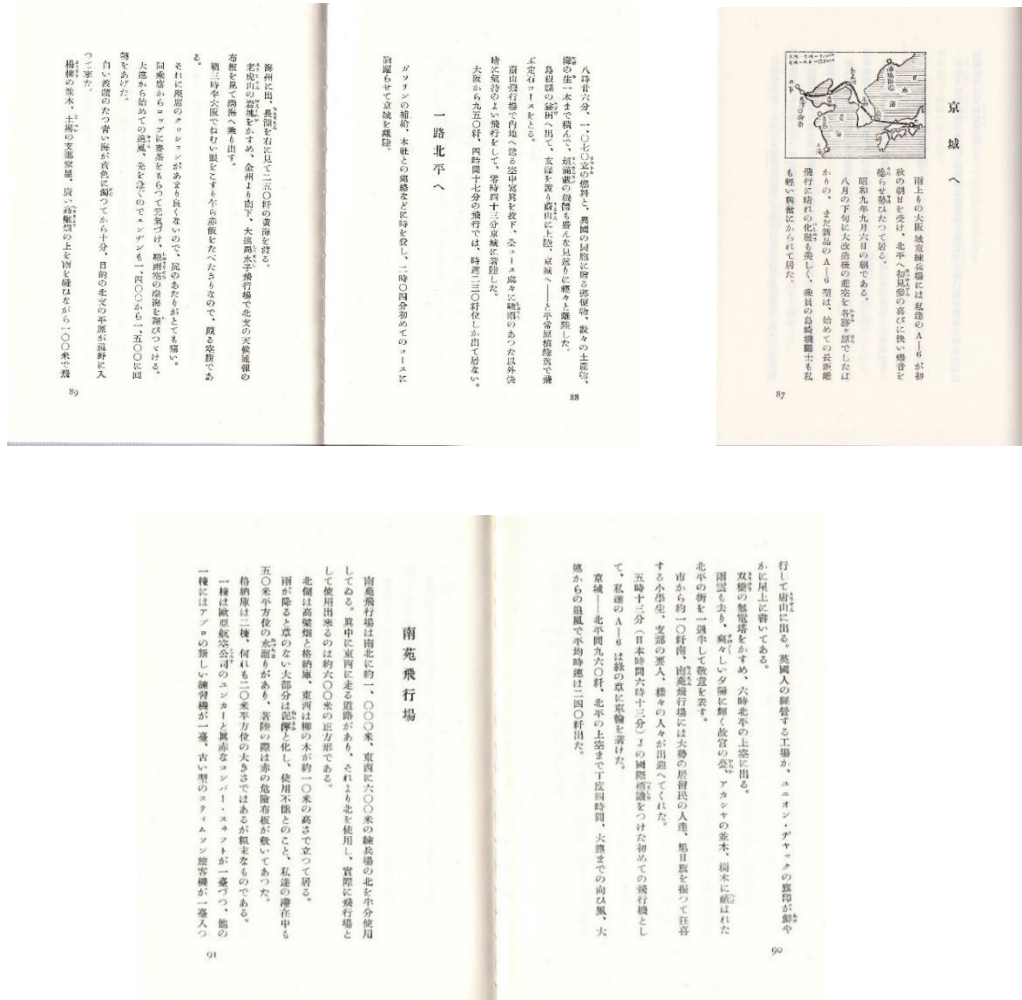
#### 【写真説明】

【左中】 米人マース氏を招く：本社は明治四十四年三月城東練兵場で同氏の飛行を公開しました、日本における飛行公開の最初であります 【左下】 定期航空：大正十二年一月東京大阪間の定期航空をはじめ一般から托送の貨物輸送を開始しました、昭和三年八月二十七日からは更に旅客機を用ひて旅客も取扱ふことにしました 【右上】 大正十四年の訪欧飛行 代々木出発の日：初風機(安邊飛行士 篠原機関士) 東風機(河内飛行士片桐機関士) 【右中】 北平飛行 昭和九年九月：国産機川崎式C-5型(新野飛行士、塚越機関士) 同上A-6型(飯沼飛行士、島崎機関士) 【右下】 上海飛行 昭和十年三月：国産機川崎C-5型(新野飛行士、塚越機関士) 【中下】 南京飛行 昭和十年三月：国産機川崎C-5型(新野飛行士、塚越機関士) 【左上2枚】 日暹飛行 昭和十一年十二月：国産機 鵬号(新野飛行士、長友飛行士、永田機関士)

- 大正14年(1925)前年フランスからのドアジー訪日飛行への返礼などの目的でフラン

スの爆撃機であったブレゲー機を2機使い「初風」(安邊、篠原)「東風」(河内、片桐)による第一次欧州訪問飛行。7月に出発し2ヶ月を要してパリのル・ブルジェ飛行場に到着。シベリア新空路開拓に成功(この飛行のあと朝日新聞の部数が伸びる)。このことがのちに神風号の記録飛行企画の大きな下地となる。

□昭和9年(1934)北平(北京)訪問(飯沼、島崎)。その模様は下の通り『航空随想』に掲載。



飯沼正明『航空随想』から昭和9年の北平(現在の北京)訪問のくだり

□昭和10年(1935)3月C-5機で上海・南京訪問(新野、塚越)、新京訪問(飯沼、仙野)。

□昭和11年(1936)三菱重工業製の国産機「鵬」号でタイ国訪問(新野・長友飛行士、永田)。

3. 亜欧連絡記録大飛行の世界記録達成とその意義について

(1) 亜欧連絡記録大飛行前史・フランス人によって幾度か試みられ挫折

- ①昭和6年、フランス航空省の企画でパリ・東京間を100時間以内で飛行した者に懸賞金を出すという懸賞に応じたフランス人飛行士のマルセル・ドレら3人はシベリアコースで無着陸飛行を試み、途中ウラル山脈に墜落。ドレは助かったが他の2人は死亡。
- ②昭和9年1月、フランス人飛行士ドレド、南回りコースで記録飛行に挑戦するが仏領インドシナ(今のベトナム)で挫折。
- ③昭和11年11月、フランス人飛行士アンドレ・ジャッピーが南回りコースで挑戦、あと一歩及ばず東京迄約1,000kmを残し佐賀県脊振山に墜落、重傷を負う。地元住民に救出される。
- ④昭和12年2月、フランス人飛行士デニスとリベールがパリ・東京間の記録に挑戦し失敗。

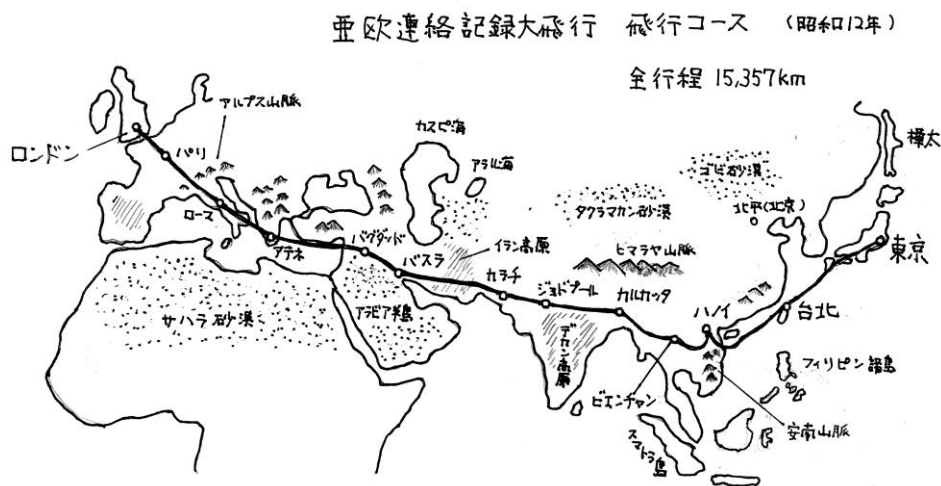
◎これまで成功した記録は昭和3年(1928)にフランス人飛行士コストとルブレによるパリ・東京間6日21時間53分が破られず唯一の記録となったままだった。

## (2)目的

- ①エドワード八世がアメリカの民間人シンプソン夫人との恋に陥り退位したのを受け、弟ヨーク公がジョージ六世として王位継承をすることになり、その戴冠式を祝う親善訪問。
- ②亜欧連絡大飛行で新記録を樹立するため→日本国民は圧倒的にこちらに関心を抱き、朝日新聞社も大々的にキャンペーンをはる。この大飛行の企画は話題性だけでなく、企業としての朝日新聞社にとって自社企画は毎日新聞社との取材競争の勝利につながり販売部数の躍進と広告料収入の増収となる。

(3)神風号の性能 三菱重工業製。国産機として世界に誇れる高性能機。エンジン:550馬力。最高速度:500km/h。航続距離:2,400km。

## (4)亜欧連絡記録大飛行の経過(往路)



- ①軍人ではなく民間人らしく冷静かつ合理的判断で「仕切り直し」。出発式の重圧を意に介しない(4月1日)。再出発までの間、塚越賢爾と二人で銀座へ出かけたりしている。
- ②4月6日の再出発(午前2時12分)。朝日新聞航空部長河内一彦の教訓が生きている。
- ③3つの危機を克服 ○一つめ 当時、南シナ海は有視界飛行でいくしかなく(あまり計器に頼れない)、低高度で海面すれすれの飛行を余儀なくされる(当時の飛行家全員に共通)。○二つめ この時の安南山脈(ベトナムとラオスの国境に横たわる山脈)の山越えは乱気流や雷で不安定な飛行を余儀なくされる。○三つめ カルカッタ飛行場を離陸する際に給油した燃料の重みと900mあると聞いていたが実際は700mと予想外に短い滑走路のため浮力がつかず、あやうく立木に激突しそうになったが、瞬間機体を傾げ紙一重の差で立木をかわして離陸。飯沼正明は3つめが最大の危機だったと述懐する。
- ④ローマのリットリオ飛行場着(4/9 A8:47) ここで都市連絡飛行のスピード新記録樹立が確実になる。杉村イタリア大使からの忠言「最後まで油断するな」→易経「易曰、狐濡其尾。此言始之易、終之難也」を引用。
- ⑤クロイドン空港での歓迎(日本時間 4/10 A.0:30)
  - 距離 15,357km。94時間17分56秒の新記録樹立。実飛行時間は51時間19分23秒。
  - 6,000人もの大群衆が待ち受け大歓迎を受けた。クロイドン飛行場への飛行機便は欧州大陸と英国との間の定期便のみで、多くの人々はまさか極東から幾つもの大陸を越



え日本人が飛行してくるとは前日まで夢にも思わなかった。それほどの困難をのりこえ、はるばる国王の戴冠式を祝賀するために来たわけだから、飯沼飛行士と塚越機関士への歓迎は並大抵でなかった。これほどの人数のイギリス人の出迎えを受けた日本人は後にも先にも飯沼たちしかいない。クロイドン空港で飯沼がマイクロフォンに向けて発した第一声は、"I am glad to be here." あとは日本語でスピーチしたという。

#### (5) 亜欧連絡記録大飛行の意義

- ① 関東大震災後、飛行船ツェッペリン伯爵号の訪問(昭和5年)やリンドバーグ夫妻の日本ほか東アジア訪問飛行(昭和6年)など欧米からの飛行機が頻繁に訪れた。また欧州から日本への記録飛行も試みられるなど、一方的に欧米の飛行機が訪れながら、逆に日本から欧米への記録飛行等がないことで、**飛行機技術の遅れにうっ屈としていた日本人に、国産機による世界記録達成で、大きな誇りと自信を与えたこと**。この場合の世界記録はパリに本部がある国際航空連盟(FAI)が公認すべき記録として定めた「国内記録、級別(A級:自由気球、B級:飛行船、C級:陸上飛行機、C—2級:水上飛行機、C—3級:水陸両用飛行機、D級:滑空機、E級:オートジャイロ、G級:ヘリコプター)の国際記録、世界記録、都市連絡飛行」の4種類に限られる公認記録である。**「神風」号の記録は、機体種別Cのジャンル「都市連絡飛行」の記録として世界的に公認された**わけである。従って途中無着陸である必要はない。
- ② 欧州においては日本が純国産機を作れるとは信じられていなかったが、その常識を覆す。
- ③ ヨーロッパにおいては、日本人は飛行機を操縦するのに不向きな民族であると信じられていたが、遥か極東から欧州まで飛行するだけの飛行技術を見せつけ、その常識を覆す。
- ④ この大飛行の目的の一つがジョージ6世戴冠式祝賀のための親善訪問飛行であったことで日本に対するイギリスの悪化しつつあった感情を大きく改善したことが大きな意義をもつ。イギリス人たちには平和の使者ともとれたことであろう。それを証するのが昭和12年4月10日付で吉田茂駐英大使が岳父牧野伸顕(大久保利通次男)に宛てた書簡でそこには「昨今英ノ対日感情悪化ナルモ 秩父宮訪英・朝日新聞ノ訪英等好影響 着任以来支那問題通商問題解決ニ努力 日支関係ハ日本ノ自力更生ガ必要 ボードウィン晚餐会ニ招待 欧州政情混乱 英モ苦境ノ様子」とある。この中の「朝日新聞ノ訪英」こそ神風号の訪英親善飛行そのものに他ならない。
- ⑤ **帰途も同一コースを飛行したこと**。社命で戴冠式撮影フィルムと取材原稿をいち早く持ち帰るといふ本務に戻る。その点いままでの歴史的記録飛行の成功者とは全く異なる。ドーバー海峡横断のブレリオ、大西洋無着陸飛行のリンドバーグでさえ帰路は船だった。

#### (6) 亜欧連絡記録大飛行直後の4ヶ国訪問、戴冠式、そして日本への帰途に

- ① ベルギー(4/16) 来栖大使や天才美少女ヴァイオリニスト諏訪根自子の出迎えを受ける。ベルギーでは**国賓待遇**で歓迎され皇帝レオポルド三世に謁見。無名戦士の墓に供花。  
□ 諏訪根自子の感想(昭和12年5月22日付朝日新聞 見出し「神風と根自子嬢と 奇しき慶びの三重奏」)「飛行機はあまり大きくはないが、色は水色でとてもきれいだ。(中略)ピアちゃんは飯沼さん、私は塚越さんに花を上げる。二人ともとてもすてき。殊に飯沼さんがとても綺麗。あんな人は一寸見たことがない。(中略)飯沼氏はダンゼン素敵だったので、ジロジロ眺めるだけ眺めた。あゝ今日はホントに嬉しかった。」
- ② ドイツ (4/16) ゲーリング航空相と会見。リリエントールの慰霊。**ドイツ側の反応は熱烈さは少なくゲーリングのサイン入りのポートレートをもらうのみ。ヒトラー総統には**

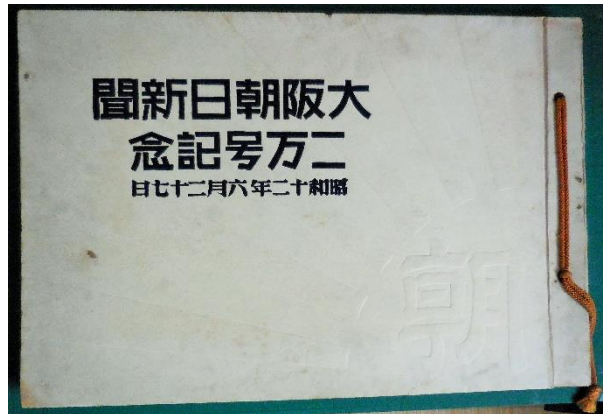
会っていない⇒ドイツは飯沼らが英国王戴冠式のために来たことが影響したか。

- ③フランス(4/20～4/22) ピエール・コット航空大臣から外国人飛行家としてはリンドバーク以来となるシュバリエ・レジョン・ドヌール勲章を受章。
- ④イタリア(4/23～4/27) イタリア皇帝エマニュエル三世とムッソリーニ首相に謁見。ムッソリーニの歓待を受ける。イタリア空軍有功章授与される。
- ⑤イギリス(4/27～5/14) 4ヶ国親善訪問飛行から帰還。4月28日ロンドン市長ジョージ・ブローブリッジ卿が飯沼・塚越の二人のために招待宴を開く。このことは**国賓待遇並みの扱い**をしてくれたことを意味する。4月30日民間航空局開所式で飯沼・塚越両名がリンドバークに会い、彼から亜欧連絡記録大飛行を賞賛され「一度食事をして話したい」と申し出がある。5月12日ジョージ六世の戴冠式当日、ロンドン上空を旋回飛行し祝意を表す。
- ⑥イギリスから日本へ帰還(5/14 出発、5/21 大阪城東練兵場着、同日東京羽田飛行場着)

亜欧連絡記録大飛行が成功した年 昭和12年の世相 (引用参考:『昭和・平成家庭史年表』ほか)

- 1月資生堂の「花椿会」発足 / 21日政友会の浜田国松が衆議院本会議で軍部の政治関与を批判
- 2月2日林銑十郎陸軍大将が組閣、政友会・民政党からは入閣なし / 19日兵役法施行令改正
- 4月5日保健所法公布。結核予防法改正 / 15日三重苦の「奇跡の人」ヘレン・ケラー女史来日。
- 5月26日双葉山が第35代横綱を免許。○6月4日第一次近衛内閣発足、軍・官・民挙国一致内閣
- 7月3日東京浅草に国際劇場開場、SKDの「東京踊り」で開幕 / 7日盧溝橋事件発生、日中全面戦争に突入。 / 15日日本郵船、世界一周航路を開設。○8月永井荷風『溷東奇譚』が岩波書店から刊行 / 13日第二次上海事変勃発、共同租界で日中戦闘 / 20日 産児制限論のマーガレット・サンガー女史が来日 ○ 9月4日 NHK「皇軍慰問の夕」放送 ○10月2日 日本統治下朝鮮で「皇国臣民の誓詞」発布 ○11月6日日独防共協定に伊が参加。○12月13日、日本軍により南京陥落(南京事件)

#### 4. 亜欧連絡記録大飛行後の飯沼正明の活動



飯沼正明『航空随想』(昭和12年羽田書店) 『大阪朝日新聞二万号記念帳』(昭和12年大阪朝日新聞社)

- (1)昭和12年7月、盧溝橋事件で日中戦争が勃発し、朝日新聞社から従軍。北支へ航空部隊の遠距離通信 や偵察に従事。「この事変の重大化するにつけても、私は人情として北平の街だけは砲火の洗礼を受けさせるにしのびない」(飯沼正明『航空随想』)
- (2)昭和12年7月朝日新聞社、朝日社機の「徴用」を軍部に提案。航空部員全員「軍属」。飯沼、塚越とともに大連に向かい、8月まで敵地の偵察にあたる。
- (3)昭和12年10月1日から海軍嘱託になり(1年間)、翌日から福岡・上海間の軍用定期航空の業務に従事。軍関係者の移動、軍機密書類、軍事郵便の空輸。上海に来る度にダンスホ

ール「桃山」に出ていたダンサー須藤知恵子の許に命がけで通い恋が深まる。(14年結婚)  
(4)昭和15年日中戦争の偵察業務に従事、6月9日上海-漢口間を20時間15分飛行。一方で朝日新聞社のA26プロジェクトに塚越機関士とともに関与。当初16年に飛行予定。

幻の東京オリンピックの年 昭和15年の世相 (引用参考:『昭和・平成家庭史年表』ほか)

○1月6日拓務省、満州開拓団員のため花嫁1万人募集 / 16日親英米派の米内光政内閣発足。○2月11日  
紀元2600年の紀元節、全国11万の神社で大祭 ○3月30日南京に汪兆銘を中心とする新中央政府成立 ○  
4月29日全国のトップをきり高知県で米の切符配給制始まる○5月1日東京市など大都市では外米6割  
混入米を配給と決定(従来4割) ○7月16日英米寄りの米内光政内閣、陸軍の勧告で畑俊六陸相が単独辞  
任したため崩壊。/ 22日第二次近衛内閣発足、陸相に東条英機、外相に松岡洋右 ○8月 電力制限で広告  
灯・ネオンサインがなくなる / 30日 学生の劇場・映画館への平日入場が禁止される ○9月11日内務省が  
「部落町内会等整備要綱」を通達 / 27日、日独伊三国同盟が調印 ○10月12日 首相官邸で大政翼賛会の発  
会式 / 30日教育勅語50周年式典 / 31日 東京のダンスホールが全て閉鎖 ○11月10日宮城前で皇紀  
2600年祝賀式典 / 23日 大日本産業報国会結成 ○12月 出版諸団体解散、「日本出版文化協会」設立

(6)昭和16年には朝日新聞社航空部の仕事の8割が軍関係の輸送業務となり、飯沼正明は  
6月に陸軍航空本部嘱託となる。12月4日陸軍技師に任官し羽田飛行場から百式指令部  
偵察機を南方基地に空輸する業務に従事。サイゴン飛行場で12月8日の日米開戦を知る。

## 5. 幻に終わった東京・ニューヨーク間無着陸飛行

- (1)長距離無着陸飛行への意欲 民間飛行家として次は東京・ニューヨーク間無着陸飛行を  
夢見ていた→日本がアメリカに宣戦布告しなければありえなかった。
- (2)新たに開発された A26 東京・ニューヨーク間無着陸飛行の企画は朝日新聞社が紀元  
2,600年祝賀の企画だった。昭和15年2月11日に朝日新聞は「紀元二千六百年記念事業、  
世界最高標準目指す長距離飛行機を建造」と大見出しの記事を出し A26 の建造計画を公  
表。陸軍に試作機を依頼、陸軍は「長距離爆撃機の研究」という名目で引き受ける。航続  
距離15,000km以上を見込む。
- (3)昭和16年日米開戦の機運の高まり 同年秋に陸軍は A26 の建造は不急だとし一旦計画  
は中止。同17年4月米軍機 B25 本土初空襲への米本土報復爆撃のため緊急で建造再開、9  
月完成。同年暮れ東条英機首相、陸軍航空本部に日独間無着陸連絡飛行を命令。18年7月7  
日塚越らが乗った A26 がベルリンに向けシンガポール離陸後インド洋上で消息を絶つ。

## 6. 若すぎた飯沼正明の人生の終焉

- (1)飯沼正明は A26 の計画中止と日本の真珠湾攻撃による開戦(昭和16年12月8日)の二  
つのことが精神的な疲労、絶望につながり、軍務遂行中の「戦死」へつながった。死の前  
飯沼はサイゴン・プノンペン間の軍用連絡に従事。
- (2)死亡時、軍によって「名誉の戦死」とされたが、本当の死因でない死因が公表され、国民  
の戦意高揚につなげられた(教科書にも登場)→情報統制によりかん口令、尊厳ある死に  
対して虚飾が加えられた→当時、国民は天皇の赤子であり「海ゆかば」(原歌は大伴家持。  
昭和12年11月に信時潔の作曲により国民歌謡)の歌に象徴されるように「天皇」のため  
に死ぬことが当たり前とされた。よって優れた飛行技術で知られた飯沼に「戦闘による死」  
はあっても心の油断からくる事故死などはありえない。
- (3)仮に軍のいう死因とした場合、飛行機の機体を貫くほどの威力ある機関銃の弾丸を浴び



て飛行場への帰還はどれほどまで可能なものか。

(4)戦後、曾良行夫が雑誌『真相』(昭和 23 年 10 月号)に飯沼正明の死について書く。

## 7. 「日本のリンドバーグ」といわれながら、なぜ戦後日本人の記憶から薄れたか

(1)飯沼正明自身の不幸(組織の人。わずか 29 歳の命)

①戦時色強まる中で軍人たちによる飛行の活躍が目立つようになってただけでなく、組織に従い軍属の立場に変わり、本来の民間飛行家としての立場を次第に発揮できなくなった。

②29 歳という若死→飯沼が目標とする太平洋無着陸横断が幻に終わり無念の死。短命では「ライフワーク」を残せない。長生きすれば、戦後さらに多くの偉業を重ねられたかも。

(2)本物のリンドバーグ(1902~1974)は飯沼正明とどう違ったか(米のサン・テグジュベリ)

①昭和 2 年(1927)の大西洋単独無着陸横断飛行(5 月 20 日~5 月 21 日。ニューヨークのルーズベルト飛行場からパリのル・ブルジェ空港へ。その企画と実践は企業の企画ではなく自らの企画だった。「スピリット・オブ・セントルイス号」と名付けられた単葉単発単座の飛行機で単独飛行。その点、飯沼正明は組織の人だった。飯沼正明『航空随想』P58 には自身を凡人とした上で「いい機会を与えられたにすぎなかった」と謙虚に語る。

②リンドバーグは夫人をのせて飛行機で東アジアを訪問、日本に立ち寄り「余裕」があった。夫人は作家で『海からの贈り物』などで知られ、このときのことを本に著わしている。

③もともと機械工学を専攻した彼はマルチの才能で人工心臓の開発でも知られる。

④パンナムの顧問(1920 年代終~1930 年代) ⑤「リンドバーグ法」誘拐罪を重刑に。

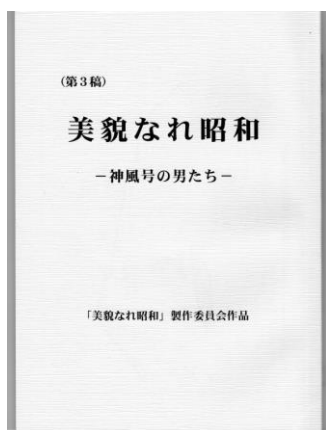
(3)飛行機等航空の技術革新のテンポの速さ

①ナチス・ドイツではロケット開発、実用(昭和 17 年 弾道ミサイル V2 号成功、大戦中に 3000 発使用)。更にジェット機も開発(大戦末期にメッサーシュミット Me262 実践使用)。

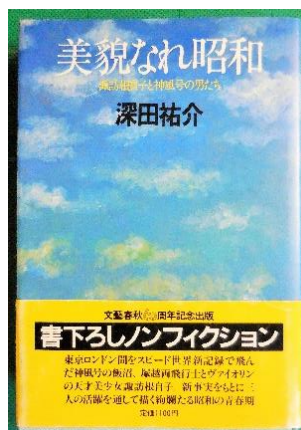
## 8. 二度あった飯沼飛行士映画化の話

(1)池辺良による映画化の話→立ち消え。飯沼正明役=池辺良 塚越賢爾役=森雅之

(2)熊井啓監督による「美貌なれ昭和」映画化→熊井啓の死により立ち消え



熊井啓の台本シノプシス(梗概)



深田祐介『美顔なれ昭和』  
(映画の原作)



初の諏訪根自子評伝  
(熊井死後の刊行)

○深田祐介『美顔なれ昭和—諏訪根自子と神風号の男たち』(昭和 58 年文芸春秋刊) の映画化。天才美少女諏訪根自子は登場しない。登場人物は飯沼、塚越、須藤知恵子、河内一彦、中野勝義、藤田雄蔵の 6 人だけ。この台本の中で「飯沼は誰もが認める美貌の持ち主だった」と書く。安曇野市豊科吉野の旧家の出身だった熊井啓は何を訴えたかったか。